



新潟県作業療法士会ニュース

朱鷺

No. 12

第1回新潟県リハビリテーション専門職 学術大会開催報告

第1回新潟県リハビリテーション専門職学術大会準備委員 児玉信夫

令和元年12月14日(土)15日(日)の2日間に渡り、朱鷺メッセにおいて第1回新潟県リハビリテーション専門職学術大会が開催されました。この大会は新潟県リハビリテーション専門職協議会に出席していた各団体の会長らの熱い思いが形になったもので、全国的にも例を見ない先進的な動きであると開会式でも話題となりました。初回の準備委員会では大会テーマについて話し合い、チーム医療が当たり前となった現代において様々な場面で連携という言葉は使われ、横のつながりは確かに強くなってきている印象の中、では実際に1歩踏み出して共に動いた経験について振り返るとそのエピソードの少なさに「連動」という言葉が出てきました。その後、テーマに沿った企画と準備を行い当日を迎え、心配していた天気にも恵まれ636名の参加者のもと大会は開催されました。

特別講演やシンポジウム、セミナーや演題発表の会場は活気にあふれ、また会場の外では職種を超えて積極的に交流が図られていました。1日目の終了後に企画された交流会では100名を超える参加者のもとリハビリテーションについて熱く熱く語られていました。語らいからは我々の連動の必要性を改めて感じる事ができました。

閉会式では次期大会長に四方会長が選出されるとともに北上守俊会員の口述発表に対して協議会賞の受賞が発表されました。

正直なところ準備委員に指名された際は「2週間前に県学会があるのに無理でしょ」の一言しかありませんでしたが、終わってみると大会テーマであった連動へのヒントがたくさん詰まった、そして実際に連動の第1歩となったのではないかと感じられる大変有意義な2日日間になったと思えました。参加された皆さま、ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

次は第54回日本作業療法学会が新潟で開催されます。全国規模の学術大会を身近に感じることができる数少ないチャンスです。隣のOTと声を掛け合って参加してみませんか。それもOT同士で共に1歩を踏み出すという連動にあたるのではないのでしょうか。

第5回北関東信越ブロック学会／ 第16回新潟県作業療法学会を終えて

学会運営委員会 運営部 大塚 理人

令和元年11月30日、ハイブ長岡において第5回北関東信越ブロック学会、並びに第16回新潟県作業療法学会が開催されました。私は学会運営委員として運営業務に携わりながら時間を見つけ、演題発表や各講演を聴講しておりました。

今年度は合同学会ということもあり、群馬・栃木・長野・新潟の県内外から参加者数は200名を超え、他県の作業療法士が取り組んでいることを目の当たりにし、互いが刺激し合える学会になったのではないかと思います。また、今年度から新たに取り入れた口述発表のビギナーズ枠では、質疑応答において会場から温かい雰囲気を感じられ、発表未経験の方は学会発表への良いきっかけになったのではないかと感じました。

さて、今年度の学会テーマは「人々の健康と幸福につながる作業療法実践～作業療法の専門性と多職種連携を学ぶ～」でした。特別教育講演では「OBP2.0」、特別公開講座では「信念対立解明アプローチ」について、吉備国際大学保健医療福祉学部作業療法学科/大学院保健科学研究科 教授 京極真先生からご講演いただきました。「OBP2.0」とは、「作業療法の専門性」を活かしつつ、「多職種連携を促進する」新理論であり、聴講後は多くのことを考えさせられました。「作業療法の専門性」とは講演でもあったように、作業機能障害を評価しながら、その人にとって意味のある作業が行えるように支援していくこと。言わば「作業に焦点を当てる」ということです。しかし、我々作業療法士が、対象者のみに「作業療法の専門性」を発揮したところで、生活に般化できていなければ自己完結な療法士中心のアプローチで終わってしまうことに改めて気づかされました。対象者の想いを支援者である多職種と共有しなくては、対象者と作業療法士との合意目標がいつの間にか消えてしまっていることもあります。そのため、生活を見据えるためには内部や、私たちより多く接する外部との多職種連携が必要となります。その際、立場の異なる職種の協働により、意見の対立（信念対立）が発生することもあります。正直なところ、私はそうした場面では多職種からの意見や反応に尻込んでしまい、自身の意見を先延ばしにしてしまうこともありました。「信念対立解明アプローチ」の講演にもあったように、まずは深呼吸等で自身の感情を調整し、状況と目的を意識しながら解明を目指し、よりよい多職種連携を心掛けていきたいと思います。その人らしさを継続できる対象者中心のアプローチを行うためにも、多職種間とも合意目標を掲げ、そのマネジメントを行う必要性を感じました。私自身もまだまだ至らない点が多いですが、まずは目の前の対象者や多職種、普段の臨床に還元しながら、作業療法をおこなっていきたくと思っています。

今年度の合同学会、そして次年度朱鷺メッセにて開催される日本作業療法学会を経て、新潟県の学術活動の活性化に繋がるよう努めていきたいと思っています。最後に、無事滞りなく学会を終えることができたことに関係者の皆様方に深く感謝申し上げます。

片手でも行為ができる便利グッズ

悠遊健康村病院 作業療法士 榎本康佑

今回は、衣服のファスナーやサランラップ等片手が不自由な方でも目的の行為が出来るような便利グッズを紹介します。

紹介するものは、ホームセンター等でも比較的安価で手に入る滑り止めシートです。脳卒中後等病氣の後遺症により、片麻痺等になり片手のみでは物を押さえたりすることが難しいことがあります。そこで滑り止めシートは固定する役割を果たしてくれます。

写真はファスナーとサランラップを片手で行えるような滑り止めシートの使い方です。ファスナーは片方の手でチャックを押さえ、もう片方の手であげていきます。ファスナーと身体の間に滑り止めシートを写真のように挟みます。すると滑らずにファスナーを嚙ませてあげることができ衣服の着脱も可能となります。次に、サランラップについてです。これは滑り止めシートの他にバインダーの使用も必要となります。サランラップも同様に片手では困難な動作です。写真のようにセットしておくことで片手でもサランラップをかけることができるようになります。

<使用時の様子>



<使用時の様子>



今回は2例を取り上げました。他にも装具と下肢間に挟むことで装具の着脱がしやすくなる。車椅子のフットレストに貼ることで下肢が落ちなくなる等使い方は多くあります。滑り止めシートは固定することが困難な行為に対して比較的便利に使えるようなグッズとなっています。是非みなさまの周りにもこのようにお困りの方等ございましたらご使用していただければと思います。

施設紹介のページ



医療法人社団真仁会 五泉中央病院

伊藤 幸子

医療法人社団真仁会は、南部郷総合病院と北日本脳神経外科病院を合併し、2019年12月より五泉中央病院として新しいスタートを切りました。脳神経外科、呼吸器内科、内科、外科、内分泌・代謝内科等の診療科を有し、回復期リハビリテーション病床、地域包括ケア病床、療養病床、居宅介護支援事業所や病児保育も兼ね備えた地域に密着した病院です。

現在、リハビリテーション科はPT15名、OT10名、ST7名のスタッフで脳血管疾患や呼吸器疾患の患者様を中心に、急性期から回復期、そして維持期（生活期）に至るまで患者様のニーズに合わせた機能訓練、日常生活動作訓練を行っています。患者様の声に耳を傾け、患者様の良くなるようとする意欲を引き出せるように心がけながら、退院後の生活に不安がなくなるよう努めています。

新病院となり、今まで以上に充実したリハビリテーションを提供できるように、他職種と連携を図りながら、スタッフ一丸となって取り組んでいきます。



末広橋病院

近藤 悠太

当院は昭和27年、「山の下病院」として新潟市山の下地区に開院しました。昭和39年には末広橋病院に改称し、平成27年に新潟市東区臨港町に新築移転しました。病床は精神一般、介護療養型、精神療養、医療療養型を有しています。新病院では個室数を増やし、病室だけでなく、廊下やラウンジなどの共用部分にも十分なスペースを設け、光を多く取り入れた明るく快適な空間の下で医療を行っております。

現在、作業療法はOT4名、OTA1名の計5名で作業療法プログラムを提供しています。患者様の主な疾患は統合失調症、うつ病を始めとする気分障害、認知症、内科疾患などで、先述したそれぞれの病棟機能に応じたプログラム展開を目指し、思考錯誤しながら臨床実践をしています。入院患者様の高齢化に伴い認知症状を呈する方も増えてきたので、国立長寿医療研究センター主催のコグニサイズ指導者・実践者研修を受講した作業療法士が認知症予防のためコグニサイズ体操を実施しています。また地区住民の皆様を対象として病院を開放し、健康増進を目的とした地域体操教室を月に1回開催しています。

病院基本理念「医の倫理に基づき地域社会に良質な医療を提供しご家族にとっても安心して治療を託すことができ常に患者さまの立場になって医療を進める病院であること。」に沿えるようスタッフ一同自己研鑽を積み重ねていきたいと思っております。



令和元年度 第4回理事会 議事録

日 時：令和元年9月21日（土）13：00～16：30

会 場：新潟県作業療法士会事務局

出席者：四方、菊入、児玉、石井、一ノ本、尾崎、門脇、小山、佐藤、高頭、能村、松本、村山、吉井、（以上理事14名）、横田（以上監事1名）、本間（書記）

欠席者：貝淵、北上、松岡、伊東（以上理事4名）、水越（以上監事1名）

〈報告事項〉

1. 会長報告

- 8/22新潟県知事（花角知事）への訪問。
- 9/5地域包括ケア支援専門職協議会会議、副会長任命。
- 第53回日本作業療法学会に次回開催県会長として参加。

2. 事務局報告

- (1) 会員管理（2019.9.21現在）会員数1043名（休会含む）：入会1名、復会0名、休会0名、退会0名 ⇒承認
- (2) 受領文書、メール、後援事業等の報告。

3. 理事報告 *報告の順

- (1) 村山理事<地域包括ケアシステム推進委員会>協会主催人材育成研修に参加<地域包括ケア支援専門職協議会>来年度新潟市ケア会議に向けて人材の確保を進める<リハ専門職協議会>・大分県のデイサービス「楽」の通所Cの視察報告。伝達講習や指導者育成研修会開催予定。
- (2) 小山理事<生活行為向上マネジメント委員会>MTDLP士会連携支援室連絡会議に出席。<福祉用具対策委員会>生活行為工夫情報モデル事業、委員を中心に進める。
- (3) 貝淵理事<健康寿命延伸フォーラム>準備会議出席
- (4) 能村理事<第12回在宅ケアを考える集いin越後>大会実行委員として参加、OTは「地域の茶の間」を出展。
- (5) 伊東理事<特別支援教育委員会>学校訪問事業報告
- (6) 菊入理事、門脇理事<精神分野推進委員会>治療構造見学会、妙技研修会について報告。
- (7) 石井理事（貝淵理事欠席のため）<災害対策委員会>災害対策マニュアル今理事会で通れば印刷製本へ。
- (8) 児玉理事<新潟県リハ専門職学術大会>演題発表 OTとSTで2コマずつとなった。懇親会150名を予定。

(9) 吉井理事（松岡理事欠席のため）<地域包括システム推進委員会（茶の間）>日本作業療法士協会HPに本事業が掲載。北関東ブロック学会にて指定演題として報告予定。

(10) 佐藤理事<生涯教育委員会>・生涯教育受講登録システムについて報告。今後、登録管理者は佐藤理事と事務局員の酒井原さんとなる。*協会費未納入の会員は受講登録ができない。日本作業療法士協会・新潟県作業療法士会どちらかでも非会員の場合は定款通り非会員扱いとなる。

4. 協議事項

- (1) 積み立てについて：収支相償を考え毎年50万円ずつ周年事業のために積み立てを行う。 ⇒承認
- (2) 会議費（理事・委員の弁当代）について：消費税増税及び物価上昇を受けて変更の提案。 ⇒未承認
- (3) 渉外活動等の懇親会費の支弁について：個人負担大、支弁または順番に参加・出席することを提案。 ⇒未承認
- (4) 災害対策マニュアルについて：構成と内容 ⇒承認

令和元年度 第5回理事会 議事録

日 時：令和元年11月9日（土）13：30～17：20

会 場：新潟県作業療法士会事務局

出席者：四方、菊入、伊東、尾崎、門脇、佐藤、高頭、松岡、松本、吉井、石井（以上理事 11名）水越、横田（以上監事 2名）、片桐、（書記）

欠席者：一ノ本、貝淵、北上、児玉、小山、能村、村山（以上理事 7名）

〈報告事項〉

1. 会長報告

- 10/16花角県知事県政報告会に参加 県の展望を説明
- 10/11リハ専門職協議会 臨床実習指導者講習会についてPT士会と協議

2. 事務局報告

- (1) 会員管理（2019.11.8現在）会員数 1049名（休会61名含む）：入会6名、復会0名、休会0名、退会0名 ⇒承認
*協会入会確認が取れていない1名は未承認
- (2) 受領文書、メール等について報告。代議員（定数5名）四方、菊入、村山、門脇、一ノ本

3. 理事報告 *報告の順

- (1) 尾崎理事<広報部>・ホームページ改訂検討中。

次回理事会まで協議。＜広報誌＞11/30付で発送。＜健康寿命延伸フォーラム＞報告150名程度の参加

- (2) 吉井理事 事務局の整理を報告。＜財務＞10/11さくら会計・巡回監査指導。次回巡回は1月予定。
- (3) 石井事務局長 9/21業務執行理事会 次年度重点事項 次期体制について検討。＜災害対策委員会＞ REHUG研修会報告等。・マニュアルは11月定期便で発送。10/25～28貝淵副会長、福島県いわき市避難所支援（6か所）に新潟JRATチームとして参加した。＜表彰委員会＞・表彰対象者26名から調査書等を発送、返信を待って表選定し1月の理事会で承認の予定。対象者条件を検討。
- (4) 高頭理事 10/30 新潟県民福祉大会来賓として出席。
- (5) 菊入副会長 県医師会設立記念大会に士会として出席。
県自立支援協議会精神障害者地域移行支援部会に参加。・精神障害者地域移行支援研修会12/13開催予定。
- (6) 佐藤理事＜生涯教育委員会＞現職者選択研修にて受講登録システム試行。いくつか課題が見つかる。今後検討。
- (7) 松岡理事＜地域包括ケア推進・新潟市茶の間＞東区茶の間5周年記念式典に長井支部長参加。茶の間・アンケート結果について、ブロック学会、朱鷺、派遣会員への報告会などで報告する予定。
- (8) 伊東理事＜特別支援教育委員会＞講演や学校支援モデル事業報告。今後無償の継続は困難、予算確保の検討必要→県教育委員会教育主事 菊池氏へ学校支援事業の実績報告からつながりを作ってはどうかと意見あり。委員会名を「特別支援教育」に限定しないものに変更を検討。
- (9) 門脇理事＜精神科分野推進委員会＞治療構造見学会は計29名の参加者。精神科OTネット@新潟立ち上げつながりを促進したい。

4. 協議事項

- (1) 今年度事業の執行状況について確認（各理事より報告）
- (2) 補正予算
 - ①災害対策委員会 ⇒承認
 - ②事務局 ⇒承認

5. 報告事項

- (1) 財務より予算流用について *会長決済、理事会にて報告。補正予算と流用について財務担当吉井理事より説明。
大前提として計画した勘定科目内に沿って、計

画通りに事業・予算を執行する

6. 連絡事項 決算と事業計画・予算提出日程を確認

令和元年度 第6回理事会 議事録

日 時：令和2年1月11日（土）13：00～17：30

会 場：新潟県作業療法士会事務局

出席者：四方、貝淵、菊入、児玉、石井、一ノ本、伊東、尾崎、門脇、小山、佐藤、能村、松岡、村山、吉井、（以上理事18名）、水越、横田（以上監事2名）、本間（書記）

欠席者：北上、高頭、松本（以上理事3名）

1. 会長報告

- ・第2回47委員会：介護ロボットの協議会が終了。1月12日の報告会は山倉さんが出席予定。2月8・9日の最終は四方会長が出席。
- ・12月14・15日POS学術合同大会終了。3年後の2022年はOT士会主導のため、協力願う。

2. 事務局報告（別紙事務局報告参照）

- (1) 会員管理（2020.1.10現在）会員数1048名（内休会60名含む）：入会2名、退会3名、復会1名、休会0名 ⇒承認
退会希望者でH30年度分が未納のため退会を保留している人がある。→協会への支払日や県士会カードのシールを確認するために、再度理事が本人と直接連絡をとる。
- (2) 受領文書、メール、後援事業等について報告。

3. 理事報告 *報告の順

- (1) 吉井理事＜福祉用具対策委員会 IT講座事業＞予定通り開催し、人数分の収入があった。相談員などの他職種も参加あり。次年度は参加者数の増加が課題。
- (2) 村山理事＜運転と作業療法委員会＞前回に比べると地域特性と包括ケアに視点を置いた内容だった。次年度は委員会を解散し別部局へ組み込まれる予定。＜移動支援対策委員会＞OT協会 自動車運転先進施設見学対応について
＜地域包括ケア推進委員会＞研修会：2月2日に開催決定。＜新潟県地域包括ケア支援専門職協議会＞県民フォーラムは次年度の開催予定なし。
- (3) 菊入理事＜精神分野推進委員会 令和元年度新潟県心身喪失等医療観察制度運営協議会＞昨年度はオブザーバーだったが正式に協議会員となった。年に1回参加し傾向・動向を伝える。
- (4) 学会運営委員会 次年度委員長が変更となる。
- (5) 能村理事＜学術誌編集委員会＞論文3題、コラム5編を編集中。今年度より定期便で発送。各施設1冊。自宅会員へは発送せず。HP上の

PDFで閲覧可能。通信運搬費（昨年著者、外部業者分）はまとめて申請。

- (6) 佐藤理事<生涯教育委員会>生涯教育受講登録システムの運用について、次年度も生涯教育委員が立ち合いサポートを行う。次年度中にはPCが3台になり、受付時間は短縮される見込み。ポイントのデジタル移行は来年度末より移行期間を経て2022年度末には完全移行となる。
- (7) 小山理事<生活行為向上マネジメント委員会>MTDLP基礎研修開催。参加54名で比較的多かった。<福祉用具対策委員 生活行為工夫情報モデル事業連絡会議>モデル事業は現在11都道府県だが、35都道府県に展開予定。予算縮小も、若い士会員が使いこなせているか懸念される。
- (8) 地域包括ケアシステム推進委員会（茶の間）
松岡理事第5回北関東信越ブロック学会で県士会指定演題発表を行った。新潟市からはPOS合同学術大会でも発表をしたら良かった、というご意見を頂いた。
- (9) 伊東理事<特別支援教育委員会>事例検討・講義・研修会を実施した。3職種で足並み揃うと県からも予算が出やすいが現状はバラバラ。PT士会予算なし。
- (10) 門協理事・菊入理事<精神分野推進委員会>①精神分野推進委員会議：次年度は委員10名体制。②精神障害にも対応した地域包括ケアシステムを考える研究会：県の委託研修でOTの参加は19名と多かった。包括ケアシステムに関しOTの協力姿勢を知ってもらえたか。今後圏域での開催には1～2名で参加できれば良いか。
- (11) 石井理事<災害対策委員会>①OT協会 災害支援研修会：各県で共通する課題が挙がる②災害対策委員会議：災害協定は難しく、3年計画などで進めてはどうか。→県の協定は支払い負担金が¥30,000だが、例えばJRATとして県に登録し、POSで各¥10,000負担する等。
- (12) 児玉理事・門協理事<第1回新潟県リハビリテーション専門職学術大会>費用はPT：OT：ST=3：2：1に決定。開会式は閑散としており、プログラムの組み方、時間設定が課題となった。3年後はOT士会が担当。当該年度はPOS各士会の学会を開催せず、専門の部会をやることになる。
- (13) 一ノ本理事<レツツリモコン普及事業>AD3台貸し出し中。5台あるが、レンタル期間が1か月だと短い。

4. その他

- (1) 診療参加型臨床実習セミナーについて 能村理事→セミナー開催に伴い、理事会はR2年4月

25日に変更。

- (2) 活動報告書の配信、提出等について→理事・監事 事業名 活動報告配信の際は件名に【理事会】とつけて配信する。
- (3) 理事会時の資料について→前日に印刷、準備をするので2日前までに事務局へ。

【協議事項】

1. 令和2年度 事業計画及び予算案確認

- (1) 学術誌編集委員会：年度内で企画～発刊までは日程が厳しい。年度始めに発行をしてはどうか。→次年度で検討。
- (2) 臨床実習推進委員会：非会員の参加費を¥10,000へ上げるか。→確認。
- (3) 生活行為向上マネジメント委員会：実践者数を増やすため、そこにつなげる研修を企画するなど改善が必要。→次年度に計画するかもしくは2月上旬までに計画できるのであれば変更可能。
- (4) 会員向け広報委員会：HP改修費¥70,000は執行なし。
- (5) 公開講座企画実行委員会：諸謝金は規定と著名人・有名人では乖離。→謝金を増やすので流用を検討、もしくは補正予算で対応。
- (6) 地域向け広報委員会：職場体験の案内→次年度、案内文書を会長に確認してもらう。
- (7) 地域包括ケアシステム推進委員会：ケア支援協議会への県からの委託については3/27の会議で明確に。7ブロックで研修を予定、補正予算となる。
- (8) 地域包括ケアシステム推進（茶の間）委員会：全国学会演題発表は事業であれば、一般演題よりセミナーの方が良いのではないかと。→手続き等について確認。
- (10) 特別支援教育委員会：モデル事業報告書等を市と県へ直接提出してはどうか。→難しいが教育長へはご挨拶に伺う予定。毎年度報告しHP等での広報も必要。
- (11) 災害対策委員会：渉外費を支払負担金へ修正
- (12) (法人)表彰委員会：表彰人数6名に変更。予算修正。
- (13) 事務局：協議事項3. 旅費交通費規程改定により旅費交通費を追加
- (14) (法人)理事・監事：次年度理事会4回とする。

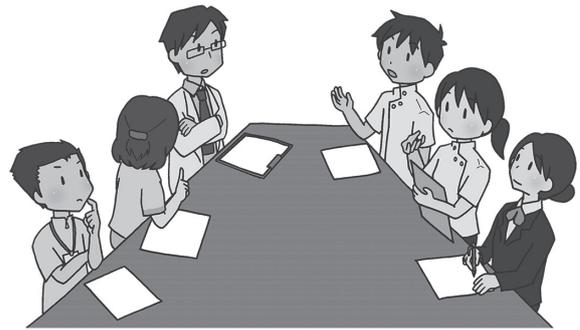
2. 県士会組織体制について（ブロック化案）

令和2年度（公社）新潟県作業療法士会組織図（案）→次回理事会までに体制を整える。

3. 旅費交通費規程改定：児玉副会長から他団体との渉外活動等の費用について提案→水越監事：本来規約委員から起案書を挙げて提案され承認を得るべき。その他修正含め

⇒賛成多数で可決され承認

4. 令和2年度表彰者について：功労賞 表彰推薦者
6名（調査書に返信があった方） ⇒6名承認
以上



SAKAIMED

急性期からの＊
ハンドセラピーを
お手伝いします。

＊ スプリント ＊

酒井医療株式会社
新潟営業所
Tel: 025-278-4777
www.sakaimed.co.jp

介護用品、レンタル・販売
リハビリ機器、医療機器販売

(株)いわしや
悠久堂医科器械店

本 社 TEL 0258-47-1848
新潟営業所 TEL 025-284-6866

福祉・労災指定
各種車椅子・座位保持装置・ベッド
コミュニケーションエイド・福祉機器一般
介護保険レンタル・介護住宅リフォーム相談

(株) G・T・B
(オーエックス新越)

〒956-0017
新潟県新潟市秋葉区あおば通2丁目28-27
TEL 0250-25-2626 FAX 0250-25-7710
http://www.gtb-niigata.jp/

義肢・装具・介護レンタル

ご相談ご用命は弊社にお任せ下さい。

社団法人 日本義肢協会登録・中部125号

 (株)田村義肢製作所

〒950-1151 新潟市中央区湖南21番地11
TEL 025 281-0303
FAX 025 281-0339



広報委員会ではこちらに掲載する皆様の作業療法の成果を募集しています！Activityによる作品や利用者様との思い出の写真等なんでもOKです！少しでも興味のある方は下記の連絡先まで!!（次回発行は7月頃を予定しています）

新潟県作業療法士会事務局

〒950-0872
新潟市東区牡丹山3丁目1番11号 三森ビル301号
<TEL> 025-279-2083 <FAX> 025-384-0018
<E-mail> ot-niigata.toki4721@helen.ocn.ne.jp

No.12 2020年2月28日発行

発行責任者：四方 秀 人
編集責任者：尾 崎 生
発 行：公益社団法人新潟県作業療法士会広報部
〒950-0983 新潟市中央区神道寺2-5-1
総合リハビリテーションみどり病院
印 刷：株式会社タカヨシ

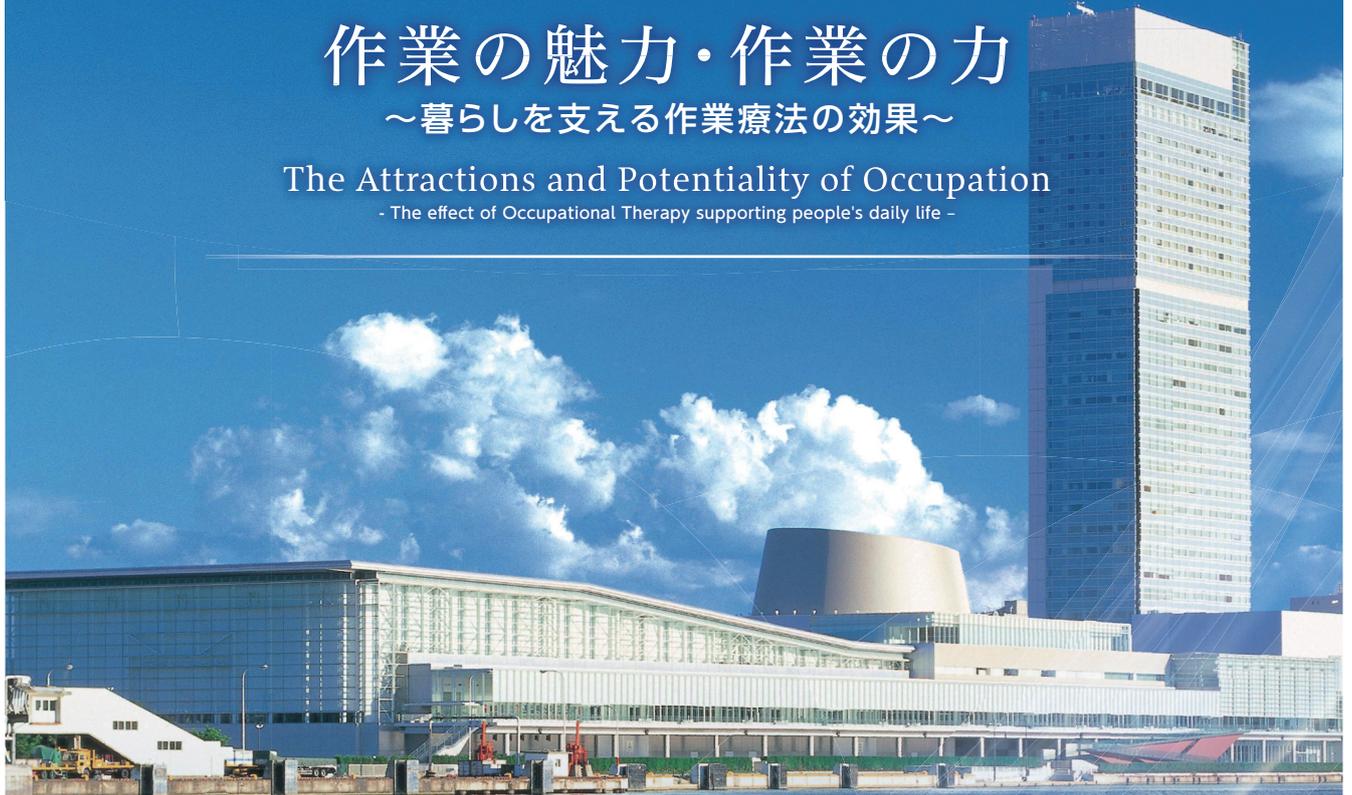
第 **54** 回 **日本** **2020** **作業療法学会**

The 54th Japanese Occupational Therapy Congress & Expo in Niigata



作業の魅力・作業の力
～暮らしを支える作業療法の効果～

The Attractions and Potentiality of Occupation
- The effect of Occupational Therapy supporting people's daily life -



開催期間 **2020年 9月 25日(金) ▶ 27日(日)**

会場 **朱鷺メッセ** 新潟コンベンションセンター

主催 一般社団法人 **日本作業療法士協会**

学会長 **石川 隆志** 秋田大学 大学院医学系研究科保健学専攻

運営事務局

〒102-0075 東京都千代田区三番町2

TEL:03-3263-8688 FAX:03-3263-8693

<http://www.c-linkage.co.jp/ot54/>

E-mail: ot54@c-linkage.co.jp

